



南風病院 院長  
末永 豊邦

# Nanpuh Medi-co

令和4年度を迎えて～院長ご挨拶～

南風病院 院長 末永 豊邦

## “消化器疾患といえば南風病院”の確立



消化器内視鏡

昨年度は消化器検査センターの組織改革を行ないました。センター長の島岡俊治消内科部長と所属する充実したスタッフが協力し、消化管内視鏡検査数・年間稼働収益額ともに大きく伸びて「消化器疾患は南風病院」と再認識されてきていると思います。

さらに、肺がん早期発見プロジェクトも地域医療機関の先生方の御支援のお陰で、多くの患者様をご紹介頂き、新原亨副院長兼消内科部長を中心としたチームで積極的に精査を行ない、早期の肺がん症例も徐々に増え、肺がん手術例も県下では有数の施設となっております。

南風病院の医業収益の約55%が“がん関連診療費”です。「消化器疾患の南風病院」として消化管がん(食道・胃・十二指腸・小腸・結腸・直腸)と胆肺がんに肝がんを加えて、いずれも県内では症例数の多い病院として高い評価を頂いております。

## がん診療体制の充実

当院は鹿児島県がん診療指定病院に指定されており、がん診療体制の充実が求められています。

紹介患者、急患の消化器疾患は、先ず消化器内科にて精査後に週1回の消化器合同カンファレンス(消内科、外科、肝内科、放射線科、医療支援課等)にて、手術(切除)、化学療法、放射線治療、併用療法等、治療方針を決定しております。

手術については消化器外科の北薗正樹主任部長が術式の説明を行ない、化学療法については毎週金曜日にケモカンファレンス(座長 政幸一郎消内科部長)を行ない、治療薬剤を検討しています。治療はできるだけ通院治療を採用し、外来化学療法室(17床)で実施されています。

キャンサーボートを月1回開催し、診断・治療困難症例に対する治療方針を、がん関連診療科・薬剤部・看護部・栄養科・医療支援課等、診療科や医師・コメディカルなどの垣根を越えて検討しております。がん末期の患者様は緩和ケア病棟(14床、医師2名)で、ご家族様を含めた心のケア、がん性疼痛、がん末期不安症に対する薬物療法、末期がん患者の看取りを行なっております。

肺がんについては呼吸器内科と呼吸器外科のカンファレンスを開き、治療方針を決定しています。化学療法は呼吸器内科にて実施し、肺がん手術は鹿児島大学病院呼吸器外科の支援により、胸腔鏡下肺切除を行なっております。

最先端医療のロボット支援手術を平成28年1月より開始し、令和4年2月までに、胃がん手術132例、直腸がん手術137例の実績を挙げております。また、整形外科領域でも昨年度にロボット支援下手術が導入されております。

## 高齢者・健康長寿医療センター (別添にてご紹介しております)

高齢化社会を迎え、健康寿命の延伸が求められている昨今です。当院では口コモ(運動機能の障害のために移動機能の低下をきたした状態)、フレイル(加齢と共に、筋力や認知機能などの心身の機能が低下した状態)の早期発見・治療・予防に取り組むために今年1月に高齢者・健康長寿医療センターを開設しました。地域医療機関の先生方、市民の皆様にはコロナ禍の為に広く周知するのが困難な状況にあります。コロナウィルス感染症が収束に向かった際には、ぜひ一度当センターを見学していただき、高齢者医療対策へのご協力をお願い申し上げる所存です。

地域医療機関の先生方には、日頃から大変お世話になり厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬ御愛顧・御指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。